

# レコードキーピング／アーカイビングとその担い手 に関する理論的研究：レコード・コンティニューム 理論からのアプローチ

清原，和之

<https://hdl.handle.net/2324/6787684>

---

出版情報：Kyushu University, 2022, 博士（ライブラリーサイエンス），課程博士  
バージョン：  
権利関係：



氏名	清原 和之 (きよはら かずゆき)			
論文名	レコードキーピング／アーカイビングとその担い手に関する理論的研究 —レコード・コンティニューム理論からのアプローチ—			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	岡崎 敦
	副査	九州大学	教授	藤岡 健太郎
	副査	九州大学	准教授	渡邊 由紀子
	副査	学習院大学	教授	保坂 裕興

## 論文審査の結果の要旨

20世紀末以来、アーカイブズ管理のあり方は根本的な変容を迫られている。特に、記録の作成から管理、保存、処分までを一元的・包括的に捉えるレコードキーピング概念や、その理論的基盤となったレコード・コンティニューム理論の登場により、記録が様々な主体によって多様な意味を持ちうることが認識された結果、管理に関する諸決定は、アーキビストや記録作成者だけではなく、多様な主体が関与すべきとの議論が現れたことは重要な論点である。

本論文は、アーカイブズ管理に関わる諸主体の多元的な関与がもたらす諸問題を、具体的実践例を通して検討しながら、コンティニューム理論の発展的理解によって整理、解明しようとしたものである。

第一章「オーストラリアにおけるレコードキーピング実践とコンティニューム理論の生成」では、レコード・コンティニューム理論の本質を、それが生み出され、発展・深化してきたオーストラリアのアーカイブズ管理行政とそれを支える理論的変遷のなかを探り、その上で、「レコードキーピング情報学」と「アーカイブ的多元宇宙」という二つの概念から、一貫性のあるプロセス思考の重要性と、記録作成者と記録対象者のような非対称な関係性を乗り越える複数性に基づく新たなパラダイムが目指されていることを確認した。

第二章「現代組織におけるレコードキーピングに関する諸問題 —技術、人、専門職—」では、組織におけるレコードキーピングの問題が、個々の組織の情報文化における技術と人との相互作用の観点から考察された。標準化されたシステムの適正な運用のためには、組織のあり方（コンフィギュレーション）や構成員の意識の違いを適切に評価し、諸主体間の関係や業務に関する種々の権限を明確化しながら、多様な業務プロセスをレコードキーピングシステムに結びつける専門職が重要となると論じられた。

第三章「参加型レコードキーピングと記録の多元的管理の可能性 —オーストラリアにおける「奪われた世代」問題を事例として—」では、オーストラリアのアーカイブズ機関等と先住民との間の先住民の記録に関わる問題を、両者「和解」の試みである「信頼と技術」プロジェクトを通して検討したものである。ここでは、記録対象者を含む多様な関係者の記録管理への関与のあり方が、「参加型レコードキーピング・コンティニューム・モデル」を参照しながら理論的に論じられた。

第四章「コミュニティ・アーカイビングと公共性 ―記録の共有・継承におけるコミュニティと専門職―」では、ロンドンのサザーク地区の再生事業に反対するアクティビスト・コミュニティの事例から、既存のアーカイブズ機関の外部で展開する記憶の管理の問題が再検討された。ここでは、自己認識によって構築されるものとしてのコミュニティが、社会正義の実現を目標に様々な活動を展開する中で、多様な情報を収集、組織化、利活用、連携する諸相が、コンティニューム理論との関係で考察されるとともに、そこでの専門職の役割が論じられた。

結論では、多様な主体、価値付けのせめぎあいが、複数性のもとでの多元的宇宙の実現へどのように転換されるかが展望されて、全体が締めくくられた。

以上のように、本論文は、現在世界の学界で注目を集めている「アーカイブズ多元化」に関する包括的な理論研究であり、学界に対して大きく貢献する業績であると認められる。

#### 最終試験

この論文について、論文調査会は、論文公聴会および口述試験を、令和5年2月2日13時30分より、箱崎サテライト旧工学部本館第1会議室での対面およびオンラインのハイブリッド形式により、清原和之氏および論文調査委員全員の出席のもと実施した。

論文内容について、清原和之氏は、論文調査委員ならびに出席者からの質問に対して、的確な応答を行い、質問者および調査委員を満足させる回答を行なったので、論文調査委員会は最終試験を合格したものと認定した。

以上から、論文調査委員会は、清原和之氏が、博士（ライブラリーサイエンス）を受理されるにふさわしいと判断した。